

美和高山ピクライト玄武岩：中部支部巡検会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 青木, 克顕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024555

中部支部巡検会報告

美和高山ピクライト玄武岩

青木 克 顕

2015年12月20日(日)、松本仁美会員を案内者として、中部支部巡検会を行った。好天に恵まれ、久しぶりに多くの参加者(18名)を得て楽しい1日となった。

今回は、先の年会で発表された松本会員の研究「美和高山ピクライト玄武岩の産状と起源」のフィールドを案内していただいた。ピクライト玄武岩が採集できたほか、油山では枕状溶岩が確認でき、松本会員の研究論文に記載された美和高山ピクライト玄武岩が水中噴火によってもたらされたものであることが確認できた。以下に、その概要を報告する。

1. 美和高山「高山・市民の森」

午前10時に高山・市民の森の駐車場に集合。ここは、静岡市街地から約50分の生活環境保全林となっている。まず、学習展示施設「森の恵」に向かい、展示されているピクライト玄武岩と石灰岩を見ながら、松本氏の解説を聞く。

ピクライト玄武岩とは、 SiO_2 (重量%) が52%以下の火山岩の内、 MgO が12%以上で、アルカリ ($\text{K}_2\text{O}+\text{Na}_2\text{O}$) が3%以下の火山岩と定義されている (Le Bas, 2000)。松本氏の研究によると、「美和高山ピクライト玄武岩の特徴には、シリカ成分が少ない溶岩、マグネシウムに富む、アルカリ成分は少ないなどがあげられ、国際地学連合による火山岩の分類では、超塩基性に入る。コマチアイトやメイメチャイトに分類される。」とのことである。

さて、一行は早速高山南の林道に向かい、ピクライト玄武岩の採集を行った。露頭(図1のA地点)は保存しておきたいということで、転石を採集。さすがに玄武岩だけあって重い。岩肌は、穴だらけである。ハンマーで割ると、光るオリビンが多数観察できた。

2. 高山山頂

弁当を食べながら山頂からの景色を楽しむために、林道を登る。途中、玄武岩の露頭を観察。山頂

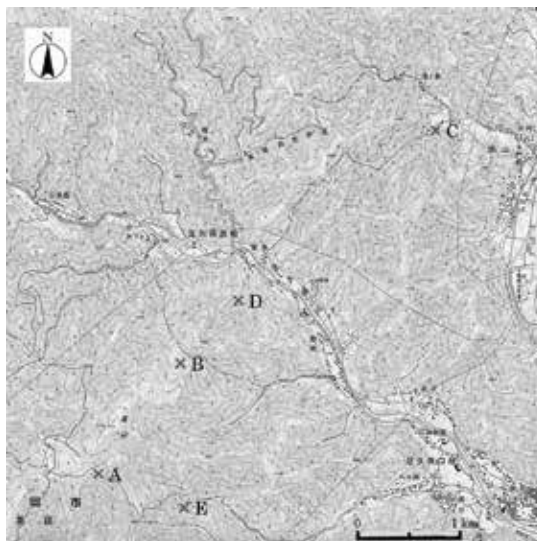


図1. 見学地点. A: 高山南, B: 高山北, C: 油山, D: 谷沢, E: 八十岡. 国土地理院 1:25,000 (牛妻) 松本仁美氏提供.

に着くと、風もなく、南側が大きく開けた眺望はすばらしい。静岡平野が安倍川の堆積物によって形成されたことや、賤機山が火山性起源であることなどの説明を受けた。弁当を食べた後は、記念撮影をした（図2）。



図2. 参加者一同の集合写真.

3. 油山（枕状溶岩観察 図中C）

車に乗って約40分間の移動の後、油山に到着。竹藪の中を進むと、足元にピクライト玄武岩がごろごろある。しばらく進むと、崩れかけた崖に、ピクライト玄武岩の枕状溶岩が観察できた（図3）。松本氏によると、「静岡市葵区油山でピクライト玄武岩の枕状溶岩が発見されたことから、美和高山ピクライト玄武岩は、プレートの沈み込みに伴う付加により瀬戸川層群に取り込まれた異地性礫岩であると考えられている（松本ほか2015）」とのことで、このことが今回松本氏の論文に表された新しい発見である。

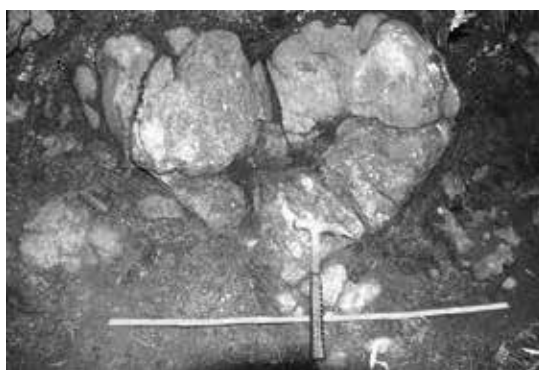


図3. ピクライト玄武岩の枕状溶岩.

「それにしても、よくこんなところで見つけたものだ。」という声が出る中、松本氏の「よく先生から、『足で稼げ』と言われた。」との発言があり、「そうだった」と思いだされた。

4. おわりに

今回の巡検では、東部支部からの参加もあり、地学会員の関心の高さがうかがえた。

退職後、大学に通い研究をつづけ、「美和高山ピクライト玄武岩は、海洋火山島玄武岩と考えられる」という成果を、研究誌に発表された松本氏のご努力に敬意を表したい。

参加者：松本仁美（案内者）、井出志津夫、久保田実、櫻井美津夫、杉山雅章、田辺久幸、佐々木修、渡邊忍、齋藤朗三、前朝琉、前まき、白土真一、白土京子、勝山育子、平井孝紀、平井佐衣子、大石竜太、青木克顕

引用文献

松本仁美・和田秀樹・楠賢司（2015）：美和高山ピクライト玄武岩の産状と起源。静岡大学地球科学研究報告，第42号，51-61.